

令和4年度第2回日進市総合戦略推進委員会 議事録

日 時 令和4年10月28日(月) 午前10時から午前11時10分まで  
 場 所 日進市役所本庁舎4階 第1会議室  
 出 席 者 鵜飼宏成、高木伸治、市川耕一、松本崇平、久田孝志、堀修、小金澤衣里(敬称略)  
 欠 席 者 水嶋義弘、亀倉正彦、三隅晋吾(敬称略)  
 事 務 局 萩野一志(総合政策部長)、岩瀬雅哉(同部調整監)、小出誠二(同部次長兼企画政策課長)、西口和宏(同課課長補佐兼市政戦略係係長)、志水崇法(同課同係主任)、佐藤成俊(同課同係主事)  
 傍聴の可否 可  
 傍聴の有無 有(1名)  
 次 第 1 開会  
 2 議題  
 第2期日進市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る主な事業及び指標の検証について  
 3 閉会  
 配付資料 資料1 第2期日進市まち・ひと・しごと創生総合戦略指標検証表  
 資料2 第2期日進市まち・ひと・しごと創生総合戦略KPI修正案  
 資料3 第2期日進市まち・ひと・しごと創生総合戦略該当部分抜粋

	1 開会
	(傍聴者入室)
	2 議題
委 員 長	議題第2期日進市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る主な事業及び指標の検証について、説明をお願いします。
説 明 者	(資料1、2、3に基づき、事務局から説明)
委 員 長	総合戦略がより適切に実行されるように、昨年度から指標及びKPIの見直しについて引き続き議論しております。この考え方については、横展開をしていくことがポイントになります。 ただいまの説明についてご意見、ご質問をお願いします。
委 員	振り返りのできる指標を設定することについては、当委員会で繰り返し意見が出てきましたが、今回の資料では反映されていません。このKPIでは目標を達成するための成功要因が見えてきません。振り返りができない数値を使っていると自己満足頑張り型となり、現実では何も変わらないこととなります。数値目標については、日進市のポリシーの部分になるので、この部分については特に意見するつもりはありませんが、この数値目標を達成するために「なぜなぜ」を繰り返し、対策立案を考える指標がKPIです。KPIは目標達

	<p>成をするためのプロセスです。この観点から指摘しますと、一番目の「小中学校の充実に対する満足度」。この内容で要因が見えてきますか。満足度で満足度を計れますか。次の「教員の ICT 活用指導力」。これはわかりますが、まだ不十分だと思います。次の「大学連携事業の実施件数」。これは大学と連携したいという方向性が見えるので合格点です。次の「安心して子育てできる環境であると感じる市民の割合」。この指標では要因が見えてきません。職員が具体的に何をやればいいのかかわからず、ベクトルを合わせることができません。次の「家庭生活における男女の地位が平等と思う市民の割合」、「職場における男女の地位が平等と思う市民の割合」これらも要因が見えてきません。少し話をさせていただきますが、先日、日進市内のレストランに行った際に、アンケートの協力依頼を受けました。内容としては「料理はいかがでしたか」、「お値段は妥当でしたか」「店員の接客対応はいかがでしたか」という単純明快な質問でした。その店ではお客を待たせないようにしていることが見てよくわかりました。お客が来たら速やかに対応し、食べ終わったらすぐに食器の片づけをする。この店での KPI はおそらく、素早く食器の片づけをする、だと思います。食器を速やかに片付けることでお客の待つ時間を短縮し、顧客満足度の向上につながっていると考えられます。それに対し、日進市ではどうでしょうか。職員が目標を達成するために具体的に何をしていたのかわかりません。</p>
委員長	<p>厳しいご指摘であると同時に真摯に受け止め、今後検討していかなければいけない内容だと思います。他はいかがでしょう。</p>
事務局	<p>事務局からよろしいでしょうか。貴重なご意見ありがとうございました。今ご指摘いただいた KPI は現在の総合戦略に記載されている KPI です。これまでの委員会で振り返りのできない KPI は避けるようにという意見をいただいている中で、今回事務局から提案している内容は資料下部にある「追加 KPI」についてです。基本目標 1 では「子どもや女性が活躍するまちを創る」を基本目標としていますので、施策 1-1 では「子ども向け生涯学習事業参加人数」としており、施策 2-2 では「保育園及び放課後児童クラブの待機児童数」を KPI 案として設定しています。この 2 点について、ご検討いただきたいと思ます。</p>
委員	<p>私の言っていることを正しく理解されていません。追加ではなく、今の KPI をどうするかが重要です。追加したから良いというわけではないのです。追加だけでは既存 KPI についての反省がないので、今の KPI をどうするかをまとめる形にしてほしいです。お願いしたいのは、KPI が妥当かどうかをこの委員会で議論するのであれば、KPI 事業を出してください。そうすると KPI が正しいかどうかの議論ができます。唐突に委員会で意見が出たので追加しましたというような議論では、この委員会は形式だけのものになり、何ら機能していない委員会になると思います。何のためにこの委員会があるのかを考えることが重要ではないでしょうか。追加という概念ではなく、今の KPI を反省す</p>

	<p>ることを期待しています。今の KPI のプロセスを整理し、「なぜなぜ」を繰り返したらある要因が出てくるとと思いますが、その要因は難しいものでなくてもいいです。今の日進市の実力ではこの要因解析が限界だと言われたとしてもそれはそれでいいです。「なぜなぜ」を繰り返し、そのなぜをみんなで共有し、一番有効ななぜを同意したその先は日進市にお任せします。そのなぜを正しいか議論するのがこの場だと思っています。</p>
委員長	<p>回数が決められているので、この委員会でまとめなければいけないという議論はよろしくないので、本日の議論で十分でないという結論になった場合は、それを克服する議論をさらにしていくことがこの委員会の主旨であろうと思います。各委員の方からご意見を承りたいと思います。</p>
委員	<p>追加 KPI 案の「保育園及び放課後児童クラブの待機児童数」について、女性が働く満足度の具体的な例を一ついただきたいです。また、保育園の入園条件において、母親が一定以上の所得がないと入園できないという条件があるようで、専業主婦の子どもは保育園に預けることができないという話を聞きました。具体的な話をすると、5人の子どもの子育てしている母親がおり、子どもを保育園に入れたいが、一定以上の収入がないと保育園に入れることができないという制度になっており、苦しんでいる姿を見えています。いくら以上の収入があれば女性の活躍と認められるのか、具体例があれば教えてください。</p>
事務局	<p>一点目の女性が働く満足度については、市民意識調査において、「女性の働く場や機会に対する満足度」として満足度が 18.4%と計上されておりますが、具体的にどのような方が満足しているか、あるいは不満を抱えているかについてはこの指標からは把握できておりません。しかし、この満足度を向上させるための具体的な施策の一例として、令和 3 年度よりショートタイムテレワークという事業を取り組んでおります。この事業は子育てなどの理由により長時間勤務が難しい方と事業者をマッチングするための支援事業であり、女性の社会進出の支援を目的とし、女性が働く満足度の向上を図るものです。二点目の保育園の所得制限については、入園希望者の条件の一つとして所得に関する項目があるということだと思います。労働時間に関する項目はあったと思いますが、所得制限については、ありません。</p>
委員長	<p>「女性の働く場や機会に対する満足度」について、どのような要因がこの中に含まれているのかを探る必要があります。また、ご回答いただいた事業もどの層にヒットする対策なのかを考える必要があります。市民意識調査を数値目標とするのであれば、単純集計で全体の数値を出しても適切な女性活躍の満足度とは言えません。回答した年齢や性別など、階層別に区切って考えると、回答の傾向が見え、それぞれ原因が違うため、対策も変わってきます。この内容がなぜを繰り返し、原因を追究していくことの一つのアプローチの仕方だと思います。本日の議論で多くのご意見をいただけたと思いますが、このような因果関係を含めて考えていけると、より適切な KPI や事業との連続性</p>

	<p>が見えてくると思いますし、元となる大きなものをどう分解するかが非常に重要になってきます。他にはいかがでしょうか。</p>
委員	<p>二点質問をさせていただきます。「地域が支え合って暮らしていると思う市民の割合」が2020年度で35.7%、2018年度では39.6%とあります。下がっている要因は何でしょうか。また、2018年度に39.6%の実績がありながら、目標値40%は適切でしょうか。二点目、保育園及び放課後児童クラブの待機児童について、現状日進市では待機児童は何人いるのでしょうか。</p>
事務局	<p>2020年頃から新型コロナウイルスの感染が広がり、人や地域との交流が減少したことが一つの原因だと考えられます。目標値の見直しについては、ご指摘のとおりだと思いますので、担当課に確認をさせていただきます。待機児童数については、2020年度の数値で保育園が23人、放課後児童クラブは24人となっております。</p>
委員長	<p>待機児童数23人が多いのか少ないのかはわかりませんが、どのような理由で待機児童が出ているのでしょうか。保育園の空きはあるが、近隣の保育園を希望するために待機となっているのか、そうではないのか。意味が大きく変わり、対策も変わってくると思います。数字の意味について補足をお願いします。</p>
事務局	<p>日進市では保育園許容人数の方が希望者数よりも多いので、希望に添えなかった方の人数とご理解ください。放課後児童クラブについては、現状、学区が定められているので、学区外の公設児童クラブを希望することはできません。児童クラブにおける対策の一つとして、例えば送り迎えのサポートなどを市が実施することで改善につながるのではないかと考えています。</p>
委員	<p>追加 KPI について、放課後児童クラブは民間と同じように長時間預かってもらえるのかを確認したいです。一概には言えませんが、公設の児童クラブでは民間に比べ、預かってもらえる時間が短く、親の仕事を早く切り上げる必要があります。また、女性が働くネックになっていることの一つとして、保育園では早い時間から子どもを預かってもらえるが、小学生になると分団での登校となるため、お見送りの時間はおよそ8時前後になります。保育園と比べ、一時間程度の差があります。私の会社では、このことが原因で仕事を続けることができず、一旦職を離れるという職員が毎年数名おります。この改善については非常に難しいと思いますが、女性の働きやすい環境を作っていくためには看過できないことであり、ご検討いただけるといいと思います。</p>
委員長	<p>小1の壁と言われるものですね。他にはいかがでしょうか。</p>
委員	<p>KPI を数値で明確化し、数字で捉えることが重要だと考えておりますが、どのような事業が該当するかについての考え方を確認したいです。例えば施策1-1の追加 KPI で「子ども向け生涯学習事業参加人数」と記載がありますが、日進市には少年少女発明クラブがあります。これは該当するのでしょうか。講座にも様々な種類がありますが、どこまでを対象としていますか。また、対象</p>

	となるすべてを拾いきることはできるのでしょうか。
委員長	具体的なご意見、ご提案ありがとうございます。今回すべての要因分析と数値がでさうわけではないので、見える範囲の中で努力して因果関係を体現化することが重要なのだと思います。段階的に大きな見直しが必要なものは数字を取れるような努力をしていくことが改善につながるのだと思います。その出発点がまだ脆弱なのではないかということがこの委員会で皆さんがご指摘いただいているところだと思います。従って、今の生涯学習講座の話においても、定義の仕方を文科省や教育委員会基準で定められているものよりも幅広いものを日進市が考え、より実効性のある「学校に行くのが楽しい」という論理付けを日進市が定めればいいと思います。大元の議論の基軸をどこに置くかが課題であるというご指摘だと思います。
委員	学校に行くのが楽しいではなく、学ぶことの楽しさという表題にした方が説得力があるように感じます。
委員	発明クラブでは毎年必ず振り返りをしており、大体 90%以上の参加者に満足いただいております。学習は学校行事だけではなく、学ぶことの大切さにつながることで感じます。
委員	施策 1-1 の「小中学校教育の充実に対する満足度」について、質問の対象者はどのような方になるのでしょうか。またこの数値については、様々な事業を進めることで向上すると思いますが、改善した結果が市民の目に触れることが重要だと思います。市で実施していることがあれば教えてください。
事務局	対象者については、市民意識調査の項目となりますので、無作為に抽出した 3,000 人を対象としており、回答率としては 40%を超える程度です。この質問は教育に関する分野で質問を設けております。
委員	その内容が成果として市民の目に見えるようにしていただけるといいと思います。主な事業のところ、基礎学力の定着とありますが、全国統一模試などの結果が市町村に通達があると思います。それを受けて日進市が取り組んでいることがあれば教えてください。
事務局	担当が教育委員会になるので、わかる範囲での回答となってしまいますが、教育委員会では、市民意識調査以外に学校向けのアンケートを実施しており、生徒が感じている満足や不満を全体的に把握しております。その中で時代に合った課題が見えてくるので、解決するべく取り組んでいると聞いております。最近で言うと、教育の ICT 化が求められているので、生徒一人ひとりにタブレットを配布し、学習の効率化を図っております。
委員	昔は給食費を教師が集金していましたが、今は口座振替となっています。今の時代では教師の負担をなるべく減らし、生徒との時間を捻出する動きがあります。教育の質を上げるためには教師の負担を減らす必要があるのだと思います。 最後に、生涯学習講座について具体的な取り組みについて教えてください。

	<p>例えば金融教育は子どものうちから始めた方がいいと言われており、我々が担うケースもあります。通常の授業とは別に進めていくことに大きな意味があると思っているのですが、その観点ではいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>生涯学習講座については、少年少女発明クラブや子どもアート展、子ども大学にっしんなどの文化系講座と幼児向けの新体操教室やプレススポーツアカデミー、運動教室などのスポーツ関係の講座があります。年間延べ人数としましては、文化系講座で1,300人程度、スポーツ講座で4,000人程度の実績があります。お話しいただいた金融リテラシーの定着は日本が抱えている課題の一つだと思います。学校だけでは足りない部分を補足していくことに生涯学習講座の意義があると思いますし、講座で学んだことが学校での勉強に活かせ、子どもたちの学習の楽しさにつながることも目的としております。</p>
委員長	<p>生涯学習については私も色々な場所で実施してきました。時には学校の総合教育の一環で教材を持ち込み、課内と課外の両方からアプローチをしてきました。昨日の新聞にもありましたが、文科省が小中学校の段階における起業家教育を生涯学習の一環でスタートしようとしています。先行実施しようとしている団体や講師の方に話を聞くと、学外の生涯学習の中で生徒に火がつき、学習が楽しい、積極的に何かをやりたいとやる気を出す生徒が多くいます。しかし、その生徒が学校に戻ると教師が学外の講座の内容を十分に熟知していないので、学校の学びに戻るよう指摘をされると、学外で得た効果が十分に発揮できないことが課題であると指摘されています。実は学外での講師は元教師であることが多く、学校での限界も理解した上で取り組んでいるので課題認識は非常に的確だと私は思っています。本日の議論ではないかもしれませんが、一口に生涯学習と言っても、どのように学校教育と接続していくかが議論されないと、学校に行くのが楽しいという議論にはならないと思います。そのため、KPIの設定の仕方について議論していただいた方が、よりいい検討ができるのではないかと思います。その他、ご意見のある方はいらっしゃいますか。</p>
委員	<p>断片的な情報しか出てこないの、数値目標からどのようなつながりでKPIが関わっているのかというプロセスがわかると方向性が見えてきます。思考のプロセスをこの場で見せていただいて、正しいかどうかの議論をしていきたいと思えます。</p>
委員長	<p>昨年度も申し上げましたが、従来の数値目標とKPIが行政的に作られてきたものとはあえて違うことを総合戦略に取り入れていますので、企画政策課においては他部署に挑戦をすることになり、風当たりが強いのと思いますが、逆に言うところの総合戦略が従来とは違った方向でまちづくりをしていくことを確固たる意識で認識して、尽力していただければと思います。それでは進行を事務局に返します。</p>
委員長	<p>貴重なご意見ありがとうございました。本日の議題につきましては以上と</p>

	なります。
	3 閉会